

令和 6 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属大塚特別支援学校	校長名	川間 健之介
幼児・児童・生徒数（R7.3.1 現在）	66	学級数	13
2 教育目標等			
① 学校教育目標	1 知的障害のある幼児児童生徒に対し、幼稚部・小学部・中学部・高等部を設け、教育法規や一人一人の教育的ニーズに基づいた指導・支援を行う。〈根拠に基づいた教育〉 2 知的障害のある幼児児童生徒に対し、自立と社会参加に必要な資質・能力を培うため、適切な指導・支援を行う。〈自立と社会参加に向けた教育〉 【育てたい力】 ○人と共に様々な活動に参加する力を身につける。 ○主体的に生活に臨む力を身につける。 ○社会生活に必要な知識・技能や問題解決する力を身につける。		
② 学校経営方針	本校は、変動する現代社会に不断に対応し、多様性や柔軟性のある新しい教育・研究に率先して携わっていく。それを実現するために、3つの教育拠点構想（先導的教育拠点／国際教育拠点／教師教育拠点）を柱とした学校経営に取り組む。 1 知的障害教育を担う附属学校として、専門性の充実・発展、教育実践成果の発信に努める。 （先導的教育拠点） 2 附属学校として社会に貢献できる学校づくりを目指す。 （国際教育拠点・教師教育拠点） 3 大学や附属学校群と連携し、大学附属学校として、今日的教育課題に対応する。		
③ 重点目標	1 知的障害教育の授業力と専門性の向上を図り、教科教育の実践研究を推進する。 2 筑波大学や附属学校、関係機関等と連携して国際教育・インクルーシブ教育を推進する。 3 大学や特別支援教育連携推進グループと協力し、11の附属学校が協同する体制の構築に貢献していく。		
④ 前年度（令和5年度）の成果と課題	①知的障害教育の授業力と専門性の向上、知的障害特別支援学校における教科教育の実践研究を推進 文部科学省研究開発学校指定2年目の研究成果（小学部生活科、中学部・高等部社会科）を研究発表会等で発信した。Microsoft Teams を活用して、本校の単元計画等のデータを他の特別支援学校等に公開・共有する環境を整備した。 ②国際教育、インクルーシブ教育を推進 ウズベキスタン、韓国、台湾等の特別支援学校教員等の研修や学校見学を受け入れ、本校の教育実践を紹介した。「在外教育施設の特色化教育プログラム促進事業（AG+）」の研究協力校として事業に参画しソウル日本人学校への遠隔支援コンサルテーションを行った。他、文京区との包括協定に基づくコンサルテーションや教育関係機関との外部支援・連携については延べ86機関に対して約150件の巡回相談や研修協力を行った。 ③学校業務の見直し、労働環境の整備 情報伝達のオンライン化、PTAと連携した学校業務の見直しを促進した。新転任者に対して学校理解等に関する研修を年間を通して計画・実施した。		

3 重点目標達成についての総括的評価

① 知的障害教育の授業力と専門性の向上を図り、教科教育の実践研究を推進

文部科学省研究開発学校指定3年目の研究成果（小学部生活科、中学部・高等部社会科・理科）を研究発表会等で発信した。特に理科は教材開発も含め、知的障害のある生徒に適した学習モデルを検討し、発信した。Microsoft Teamsを活用して、本校の単元計画等のデータを他の特別支援学校等に公開・共有する取組を継続し、学校外の登録アカウントが約180となった。

② 筑波大学や附属学校、関係機関等と連携して国際教育・インクルーシブ教育を推進

マレーシア研修生、JICA 筑波インクルーシブ教育実践強化コース研修生（中南米）、JICA お茶の水女子大学幼児・早期教育等研修生、セネガル教育大臣一行等、様々な国の特別支援学校教員等の研修や学校見学を受け入れ、本校の教育実践を紹介した。「在外教育施設の特色化教育プログラム促進事業（AG+）」の研究協力校として事業に参画しソウル日本人学校への遠隔支援コンサルテーションを継続している。他、文京区との包括協定に基づくコンサルテーションや教育関係機関との外部支援・連携について、R6年度は 機関に対して115件220ケースの巡回相談や研修協力を行った。

③ 大学や特別支援教育連携推進グループと協力し、11の附属学校が協同する体制の構築に貢献

従前から継続している免許法認定公開講座の連携では、本校の持つ知的障害教育の実践に関する知見を広く紹介した。連携推進グループ主催のセミナーおよびオンデマンド研修コースでは、全国の特別支援学校や小・中学校、高等学校等に、本校の実践や教材・教具等の紹介を行った。三浦海岸交流学习では、本校生徒も含む当事者が実行委員として活躍できるよう環境を整えた。

4 令和7年度の学校課題

- (1) 知的障害教育を担う附属学校として、専門性の充実・発展、教育実践成果の発信に努める。
- (2) 附属学校として社会に貢献できる学校づくりを目指す。
- (3) 大学・教育局・他の附属学校と連携し、大学の附属学校群として、今日的教育課題に対応する。

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- (1) 知的障害教育を担う附属学校として、専門性の充実・発展、教育実践成果の発信に努める。
 - a. 現行学習指導要領に基づき、児童生徒一人一人の実態に応じた授業づくりを推進し、主体的に学ぶ力と社会参加・自立に向けた基礎的な資質・能力を育成する。
 - 学習指導要領のねらいと児童生徒の実態を踏まえた単元計画を設定し、学習者の興味・関心に基づいた体験活動や課題解決型学習を取り入れ、主体性を引き出す授業を構築する。
 - b. 研究開発学校として、理科・社会・小学部生活科における先進的な実践を行い、知的障害教育の新たな在り方を創造・発信する。
 - 研究開発の最終年次（4年目）として、これまでの研究成果をまとめ、次期学習指導要領改訂に資する資料として「学習指導要領（生活科・理科・社会科）草案」を作成する。また、知的障害特別支援学校における教科別の指導事例として、単元デザインから授業実践を発信する。
- (2) 附属学校として社会に貢献できる学校づくりを目指す。
 - a. カフェ型教育施設「えがおカフェ」などの職業学習の場を活用し、児童生徒の社会的・職業的自立に向けた力を育成する。
 - 「えがおカフェ」での体験を中心に、段階的な職場・就業体験（校外活動含む）へとつながるようなカリキュラムを整備する。
- (3) 大学・教育局・他の附属学校と連携し、大学の附属学校群として、今日的教育課題に対応する。
 - a. 大学・教育局・11附属学校の協同体制に貢献する。
 - 筑波大学の教育研究機関・教員と連携し、学校課題や授業実践への支援を受けながら共同的に取り組む。また、附属学校間では特別支援学校・普通学校ともに、本校の有する指導の知見を必要とされるところへ還元していく。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

- ①令和6年版小学校教科書「新版たのしい理科（3年～6年）」，大日本図書，特別支援教育監修。
- ②令和6年版小学校教科書「新版たのしいせいかつ」，大日本図書，特別支援教育監修。
- ③令和6年版小学校教科書「新版たのしい算数（1年～6年）」，大日本図書，特別支援教育監修。
- ④令和6年版小学校教科書「新版たのしい保健（3年～6年）」，大日本図書，特別支援教育監修。
- ⑤チャイルドヘルス 2024年9月号「My オピニオン」，診断と治療社，1。
- ⑥月刊学校教育相談 2024年4月号「特集1 新年度！居心地のよい教室環境づくり」，ほんの森出版，10-12。
- ⑦月刊学校教育相談 2024年4月号「連載1 居心地のよい教室づくりのアイデア」，ほんの森出版，6-9。
- ⑧月刊学校教育相談 2024年8月号「連載5 居心地のよい教室づくりのアイデア」，ほんの森出版，6-9。
- ⑨月刊学校教育相談 2024年12月号「連載9 居心地のよい教室づくりのアイデア」，ほんの森出版，6-9。
- ⑩教育シリーズ Vol.3「子どもたちとこの国の未来のために 国立大学附属学校の未来教育」，東方通信社，24-25。
- ⑪「通常の学級 苦手さのある子への学びのサポートツール&アイデア」，明治図書。
- ⑫「研究報告書－三年次－（研究紀要第69集）」，筑波大学附属大塚特別支援学校。
- ⑬特別支援教育の実践情報 2024年4.5月号「はじめて知って一生役立つ教師のスキル 指導 ほめる・しかるスキル」，明治図書出版，22-23。
- ⑭特別支援教育の実践情報 2024年6.7月号「視覚支援 パーフェクト図鑑 記憶が見える視覚支援」，明治図書出版，16-17。
- ⑮特別支援教育の実践情報 2025年2.3月号「来年度に生きる「個別の指導計画」と評価の文例 実例2 特別支援学校 小学部3段階」，明治図書出版，32-35。
- ⑯学習情報研究 2024年07月号，「知的障害特別支援学校の日常的なICT活用」，学習情報研究センター，26-27。
- ⑰「個別のねらいに合わせて評価ができる 全員参加のゲームでつくる特別支援教育の授業 特別支援学校小学部・小学校特別支援学級」，明治図書出版，総120頁。
- ⑱教育音楽 小学版 中学・高校版 2024年4月号「特別支援学校・学級 指導事例（1）児童の主体的な学びを引き出す音楽活動のために」，音楽之友社。
- ⑲教育音楽 小学版 中学・高校版 2024年5月号「特別支援学校・学級 指導事例（2）みんなと気付く・親しむ・味わう音色 和楽器との出会い①」，音楽之友社。
- ⑲教育音楽 小学版 中学・高校版 2024年6月号「特別支援学校・学級 指導事例（3）みんなと気付く・親しむ・味わう音色 和楽器との出会い②」，音楽之友社。
- ⑲教育音楽 小学版 中学・高校版 2024年7月号「特別支援学校・学級 指導事例（4）いろいろな音楽に触れよう 心が動く音や音楽に出合おう①」，音楽之友社。
- ⑲教育音楽 小学版 中学・高校版 2024年8月号「特別支援学校・学級 指導事例（5）いろいろな音楽に触れよう 心が動く音や音楽に出合おう②」，音楽之友社。
- ⑲教育音楽 小学版 中学・高校版 2024年9月号「特別支援学校・学級 指導事例（6）身近なところから広げよう！ みんなでつくるオリジナルリズムアンサンブル」，音楽之友社。

学 校 評 価 （自己評価） 報 告 書 （項目別表）

令和 6 年度

学校名

筑波大学附属大塚特別支援学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	文部科学省研究開発学校制度の指定を受けた学校研究は4年計画の3年目であった。知的障害特別支援学校における教科指導について、指定研究対象教科である生活科・社会科・理科のカリキュラム開発を推進し、研究成果を研究発表会等で発信することができた。
1-2-8	学習指導要領等の基準にのっとり、児童生徒の発達段階に即した指導の状況	カリキュラム・マネジメント（教育課程編成と運用）について ICT の活用を図りながら、職員間での共有及び共同的な作成を推進した。Microsoft Teams、OneNote、UTOS 等を用いてオンライン上での共同作業により、教育課程を運用する仕組みを構築しており、それらの活用を通して指導の充実を図った。
7-1-7	学校運営のための諸事務等の情報化の状況	学校業務の DX 化による効率的な会議運営に努めた。引続き校内サーバー、UTOS、Microsoft Teams、OneNote などのツールを併用し、低コストに情報化・効率化の体制を構築し運用することで、具体的にはペーパーレス、ファイルの同時編集などによる、効率的な会議の運用を推進した。また、校内体制に配慮することで、組織的に情報化を進めることができるよう取り組んだ。
8-1-2	校内における研修の実施体制の整備状況	【学校研究】 学校研究、特に外部講師を招聘した授業研究会の充実を通して、教職員全体の資質向上を図った。 【教育局研修】 R5 年度に引き続き研修の受講進捗を視覚化し共有するツールを用いることで、学校全体で研修に取り組む環境づくりを推進し、研修を重ねた。
14-1-3	先導的教育研究	【大学への研究協力】 引き続き筑波大学人工知能研究室と連携し、プロジェクトマッピングを活用したミライの体育館に関する研究に取り組んだ。 【交流及び共同学習】 各学部が主体となって附属学校（附属小、附属高、附属駒場高、附属坂戸高）との交流及び共同学習を推進し、教育実践の充実に取り組んだ。
14-1-5	国際交流・国際貢献	【遠隔支援コンサルテーション】 R1 年度より継続している海外日本人学校への遠隔支援コンサルテーション（委託先：公益財団法人海外子女教育振興財団、委託元：文部科学省）に取り組み、R6 年度はソウル日本人学校へのコンサルテーションや海外日本人学校等に勤務する教員向けのオンライン研修の企画運営を行った。 【JICA との連携】 海外教育関係者の研修に協力した。
14-1-6	社会貢献	【えがおカフェ】 カフェ型教育施設えがおカフェでの取組は、高等部職業の活動のほか、障害者雇用による移行期の支援機能を担うため試行的な活動を実施した。お菓子や飲み物を近隣住民にご利用いただき、地域と学校との関わりを増やすきっかけとした。月に一度、近隣の老人ホームにお菓子を持参の上訪問し「おやつ会」を開催した。

10-1-6	情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	【学校 HP】 各学部が主体となって教育実践の発信に取り組んだ。 【学校研究】 外部企業と連携することで、研究発表会の効果的・効率的な運用を図ることができ、オンライン・オンデマンド併せて全国から 380 名近い教育関係者からの参加申込があった。
--------	---	--